



三重陸協たより

三重陸協広報部発行

第1号

平成19年4月28日

日本選手権混成競技 開催

トラックシーズンが開幕しました。今年は8月に大阪で行われる世界選手権の代表選考会となる、第91回日本陸上競技選手権大会混成競技が、6月23日(土)・24日(日)に三重県で開催されます。また、同時に第23回日本ジュニア陸上競技選手権大会混成競技も行われます。

混成競技は走る・跳ぶ・投げるの3つの要素を混ぜて行う競技で、その勝者は『キングオブアスリート・クイーンオブアスリート』と呼ばれ、ヨーロッパでは大変人気のある種目です。また、2日目の最終種目を終えた後、選手同士が健闘をたたえ合う光景は、選手だけでなく見る側にも感動をあたえてくれます。そんな混成競技の魅力をぜひ競技場に足を運んで体験してみてください。

また、サブイベントとして23日(土)は小学生4×100mR(男・女・混成)、24日(日)は小学生男女100m、中学生男女800mと4×100mRを行います。

三重県では、平成11年の日本ジュニア選手権以来、8年ぶりの全国大会開催となります。たくさんの声援で、大会を盛り上げ成功させましょう。

混成競技の種目

●十種競技(男子)

[第1日目] 100m→走幅跳→砲丸投→走高跳→400m

[第2日目] 110mハードル→円盤投→棒高跳→やり投→1500m

●七種競技(女子)

[第1日目] 100mハードル→走高跳→砲丸投→200m

[第2日目] 走幅跳→やり投→800m

中学男子円盤投で日本中学新記録

3月31日(土)奈良県鴻池陸上競技場で行われた記録会で、稲垣太一(一志中学校→宇治山田商高)選手が男子円盤投(1.5kg)で、45m65の中学日本新記録を樹立しました。

兵庫リレーカーニバル 2名が入賞

4月22日(日)、神戸市ユニバー記念競技場で行われた、第55回兵庫リレーカーニバル 兼2007日本グランプリシリーズ第2戦 兼第11回世界陸上競技選手権大会代表選手選考競技会で、男子3000mSCで梅枝 裕吉(NTN)選手が8分51秒10で3位、円盤投の藤原潤(八千代工業)選手が48m48で5位に入賞しました。

はばたけアスリート

目標は世界選手権出場！

～三重県の円盤投をリード～

藤原 潤（八千代工業）選手

昨年、男子円盤投の三重県記録を2度にわたって更新した藤原潤選手は1975年生まれ。30歳を超えてからも日本のトップとして活躍、記録を更新し続けて三重県の円盤投をリードしてきました。藤原選手はその要因を「記録というものは、技術と体力面などが重なって出るもの。そして、ケガやスランプで結果が出ないことがあっても、自分を信じ、まだやり残したことがあるという気持ちでやってきたこと」と語ってくれました。



藤原選手は中学（加茂中学）時代は陸上部がなかったので野球部に所属していましたが、兄が高校時代にやり投をやっていたことや同級生に成瀬君（三重高）がいたことなどがきっかけで、高校（宇治山田商業）になって陸上競技をはじめました。高校時代は、円盤投とやり投でインターハイに出場し、円盤投で3位に入賞しました。その後、日本学生選手権優勝、2002年には日本選手権2位、アジア選手権8位に入賞するなど輝かしい実績を残してきました。そして12年連続円盤投の三重県ランキング1位、日本選手権でも連続入賞を続けています。その陰には「長い期間にわたって実業団で競技を続けられたことは、家族や会社の方の支えがあったこと」と周りの方への感謝の気持ちを語ってくれました。



三重県の円盤投は、中学校では稲垣太一（一志中）が日本中学記録を更新、高校でも昨年インターハイ入賞の小野真弘（津高）が好調で、国体一次でも50mをこえる投擲をみせるなど全国的にもレベルが高く活躍が期待されています。そんな、三重県の円盤投をリードしてきた藤原選手から後輩たちへは「円盤投という種目は、技術的な要因が大きく、努力と向上心、あきらめない気持ちがあればきっと結果が出るはず、がんばってください」というエールをいただきました。

今年の目標は、大阪世界選手権の代表選考会である日本選手権でベスト記録で優勝、そして代表になること。それに向けて、国体一次では52mをこえるすばらしい投擲をみせてくれました。藤原選手のさらなる記録更新と飛躍を期待します。